



復刊第87号
題字吉岡弥生

第二十六回定時総会特集

昭和五十六年五月三十一日・ナゴヤキャッスルホテルにて

会長挨拶

会長 三神 美和

木々の緑も色濃く春から夏へと変らんとしている今日、中京の名にふさわしい活動的な名古屋に第二十六回日本女医学会総会を開くことの出来ましたことは、私の最も喜びとする所であります。会員の皆様にはご多用の中を全国津々浦々からご出席下さいまして、本会を盛り上げて下さいまして有難うございました。また地元愛知県支部の皆様には、森川支部長を中心に昨年来、本会のためお心を砕かれ、特長ある総会にご準備下さいました。この至れりつくせりのご準備にただただ感謝申し上げます。さて、昨年五十五年度は本会にとりまして画期的な年でございました。先ず第一に過去五年来、事務所移

転委員会が頭を悩ませつづけておりました事務所が、ようやく適当な場所を得ることが出来ましたことです。すでに会報をご覧になってご諒解されておられること存じますが、第十五回国際女医学会の記念事業の一つとしてぜひ本会の事務所を持ちたいというところで総会で決議されてから五年経ちましたが、昨年測らずも後でご報告するように適当と思われれるものが手に入り、始めて本会の事務所を持つことが出来ました。戦前にも会館建設の話があり、募金を始めることになっていたところ、戦争で駄目になりましたので、地下の吉岡弥生先生もさぞ喜んで下さっておられると思います。第二に記念事業の一つとして企画

された若い会員への研究助成の件が具体化し、本日ここで第一回の助成金交付が行われることになったことです。



会長挨拶

昨年九月から全国の医科大学、医学部に対し募集いたしましたところ十二月末日〆切までに三十二件の応募がありました。学術担当理事が中心となり審査して五件を選考しましたが、応募された三十二件みんな立派な研究課題で甲乙つけ難いものでした。若い医学研究者が会員の中にかくも多数おられ、立派な仕事をしておられるのを知り、今さらながら日本の女医の研究心と優秀さに驚嘆しました。本当に資金があればもっと

目次

第二十六回定時総会特集	1
会長挨拶	三神 美和
評議員会議事録	2
総会議事録	3
定款施行規則	5
総会開催地活躍の記 (愛知支部)	6
総会後記	6
討論会	6
地域医療と女医の役割	7
雅 楽	7
明治村	8
小原村観光に同伴して	8
幸兵衛察見学記	9
有松紋り	9
懇親会	10
登録係からの報告	10
宿泊を担当して	10
日本女医学会優功賞をいただき	11
へき地診療に対して表彰を受けて	11
吉岡弥生賞を受賞して	12

MWIA NEWS No.2	山崎 倫子	13
支部展望 (東京)	大畑 信子	15
板橋だより	日野チヨコ	15
荒川だより	木原シヅ子	16
大田だより	唐沢 寿	17
葛飾だより	小出つる子	17
忙中閑		
中華人民共和国のクラスメート		18
理事会議事録(三月・四月)		20
会員動静		20
編集後記		20

援助してあげたいと思いましたが。選ばれた五名の研究は何れも現代の医学会の問題課題であり、将来性のあるものと思えます。何とぞこの事業が今後ますます発展し、会員の研究意欲を奮いたたせるものになりますよう希って止みません。

第三に、学術部のお骨折で昨春秋行われた研修会も収穫の一つでありました。川那部先生、大原先生を中心に企画され、京都の卜部先生のご配慮で京都グランドホテルで開催されましたが、平沢興先生の味のあるお話といい、鮫島先生の有益な講演といい、出席者一同に深い感銘を与えました。

会員が一同に会しお話をきくことは、自分自身のためであると同時に会員相互の親睦ともなりますので、出来れば研修会をもっと度々行いたいと思えます。

第四に、昨年はまた国際女医学会第十七回国際会議が英国バーミンガムで開かれ、七十五名の本会員が出席し、演題も三題出題するなど国際的な年でありました。その会で、小野春生先生が国際女医学会の名譽会員になられたことは、小野先生お一人の名譽のみでなく、日本女医学会にとっても喜ばしいことであります。

戦後再発足した日本女医学会が、速やかに国際女医学会に復帰し、国際女医学会の一員として、今日重きをなすに至ったのは、もとより会員の皆様のお力によるものではあります。ひとえに小野先生が連絡書記としてご

活躍下さった賜と思えます。この壇上から厚くお礼申し上げます。またその会で、佐野アヤ子先生が西太平洋地区の副会長に選出されましたこともうれしいことでございます。佐野先生も連絡書記として日本女医学会のためにおつき下され、先年は、特に国際女医学会募金委員長として活躍になりました。そのご功績が認められて、副会長として選出されたことと思えます。本当におめでとうございました。またその総会で国際女

て同時に、本会の創立六十五周年の記念式を行いたいと思存します。実は昨年が六十五周年に当たったのでありますが、一年おくらせて移転祝賀と一緒にやりたいと思存します。

ことであります。本会は社団法人として唯一の日本の女医の会であります。社団法人としては、社会に何を還元すべきかを考え、女性として、医師として、個人個人は勿論ですが、会全体として、もこれにとり組まなければならぬと存じます。その意味で本日企画された「シンポジウム」は有意義なものと思存します。会員の皆様のご発言を期待しております。



会場全景

医学会五十年会員の表彰があらまして日本から七十六名も表彰されました。以上数えあげましたように、昨年度五十五年度は本会にとりまして、国内的にも国際的にも充実した年でありました。

そこで本年度も皆様会員諸姉のご協力によって輝かしい、活気にみちた年にしたいと思存します。さて、本年度は、この秋完成する事務所に移転するという画期的なことがあります。そしてそれを記念し

十年以上連続本会の役員としてご尽力下さいました役員の方の表彰も行いたいと思存しております。そのことにつきましましてはあとでお計りすることと存じます。

本年度の吉岡弥生賞該当者として社会に貢献された大分県の日野俊子先生、医学に貢献された東京女子医大生理学教室助教授の橋本葉子先生のご兩名が選ばれました。昨年は該当者なく淋しいございましたが、今年はお二人が選ばれ、本当に喜ばしい

決算、五十六年度の事業計画、予算はぜひご審議をお願いしたいと思存します。ので最後まで、また昨年度の総会から継続審議になっております施行規則の改定がございますので、ご協力をお願い申し上げます。

最後に、本総会に万全のご準備を下さいました愛知支部女医学会の先生方に重ねてお礼を申し上げます。これをもって私のご挨拶と致します。ご清聴有難うございました。

昭和五十六年五月三十一日

定時評議員会議事録

日時 昭和五十六年五月三十一日
場所 ホテル・ナゴヤ・キャッスル(愛知県名古屋市中区樋ノ口町三の十九)
午前十時三十五分開会
司会 松岡 宏子

社団法人日本女医学会評議員会開催に際し
評議員数 一〇八名
出席数 四四名
(出席予定数)

記名委任数 二六名
白紙委任数 八名
合計 78名

以上のとおり日本女医学会定款第二十七条の定足数に達し、評議員会が成立する旨の報告あり、開会を宣す
神奈川支部、広島支部よりのオブザーバーの出席を認める。

会長挨拶 三神美和
(1)全国から多数会員の出席をよろこぶ。議題について審議をよろしくとの希望をのべる。

(2)開催地愛知支部に対し、森川先生を中心として会の運営をしていただいたことに謝する。

(3)当会がますます発展することを期待し、会の盛会を祈る。

報告
一、会務報告及び事業報告 久保田くら
配布済みの資料にもつき報告あり
二、昭和五十五年特別会計報告 守安 素女

吉岡弥生賞基金
年金
ルーペンゲン
国際女医学会記念事業基金
以上について配布済みの資料に
もとずき報告あり

議長選出
岸 直枝

議事
第一号議案
一、昭和五十五年度一般会計収支
決算
配布済みの資料にもとずき説明
あり
守安 素女 承認

二、剰余金処分案 守安 素女
剰余金九、〇八四、七〇三円を
次期会計へ繰り越すことを可決。
会計監査報告 添田 百枝
昭和五十六年四月十八日監査の結
果適法かつ正確であることを認め
る旨の報告あり

第二号議案
昭和五十六年度事業計画案
各部より計画案について発表あり
庶務部 久保田くら

1. 日本女医学会六十五周年記念式典
昭和五十六年十一月十五日

2. 会館移転祝賀会

3. 二十五年永年会員表彰式

4. 役員連続十年以上の表彰式

5. 学術部 小俣喜久子

6. 講演研修会
研究助成

7. 吉岡弥生賞
事業部 丸山 芙実

8. へき地診療への助成

3. 公衆衛生、社会福祉への助成
支部助成
年金

4. ルーペンゲン

5. 六十五周年記念に際し、バザ
ーを開催する
渉外部 竹内 静香

6. 国内及び国際交流
広報部 八木 貞子

7. 機関紙の発行(四、七、十、
一月)

8. 六十五周年記念行事特集号発行
以上 承認

第三号議案
昭和五十六年度一般会計収支予算
案 佐藤千代子
配布済みの資料にもとずき説明
あり 承認

第四号議案
定款施行規則改正案 福永ひろ子
昨年の定時総会において継続審
議となった定款施行規則を各章
ごとに検討する。

第一章 会員 承認
第二章 役員 承認
第三章 役員 承認
第四章 役員の選出
第十五条 理事の選挙は十名以
上十五名以内の連記とするにつ
いて検討の結果評議員会案とし
ては理事の選挙は十名連記とす
ると決定。
(役員 承認)
第十五条 2 常任理事は選挙後
の第一回理事会において互選し
機関紙に発表し、会員に知らせ



総会風景

るものとする決定。
第四章 評議員および予備評議員 承認
第五章 会計 承認
第六章 修正案なし
第七章 委員会 承認
第八章 国際連絡書記
修正案なし

第五号議案
次期総会開催地について
昭和五十八年総会開催候補地につ
いて 三神 美和
次期総会開催地は東京。
昭和五十八年の総会は岡山支部と
決定。
司会松岡安子常任理事より評議員
に対し、感謝の意がのべられ、評
議員会の閉会を宣し、終了した。
午後零時十分閉会
議長 岸 直枝

定時総会議事録

日時 昭和五十六年五月三十一日
(日)
場所 ホテル・ナゴヤ・キャッス
ル(愛知県名古屋市西区樋
ノ口町三の十九)
午後一時十五分開会
司会 久保田くら
社団法人 日本女医学会総会開催に
際し
出席数 三、七三八名
通知発送数 三、六六〇名
出席数 二〇四名
(出席予定数)
記名委任数 六九一名 合計 1,387名
白紙委任数 四九二名
以上のとおり日本女医学会定款第二
十七条の定足数に達し、総会が成立
する旨の報告あり、開会を宣す。
会長挨拶 三神 美和
(1)月末のお忙しい中をこの会のた
めに全国津々浦々から出席して
下さった会員に感謝の言葉を述
べられ、同時に開催地愛知支部
会員に支部長を中心として昨年
から準備され、立派な総会を開
いていただいたことを心よりお
礼申し上げると挨拶あり。

○(2)国際女医学会第十五回国際会議記
念事業の第一として事務所移転
問題について種々検討した結果、
いよいよ今年新事務所への移転
を決定。
第二として日本女医学会学術研究
助成を若い女医の研究者に授与
する制度を設け優秀な多数の応
募論文の中から五名が、助成を
受ける。
(3)昨年京都グランドホテルで行わ
れた講演研修会は、非常に有効
な研修会であった。
(4)国際女医学会第十七回国際会議が、
英国バーミンガムで開催され、
日本から七十名余の方が出席、
演題も提出した。その席で小野
春生会員が名誉会員に推薦され、
佐野アヤ子会員が西太平洋地区
の副会長に選出される。
五十年会員として日本女医学会か
らも七十名余の方が表彰される。
(5)今年秋に行われる日本女医学会六
十五周年記念に二十五年永年會
員と役員連続十年以上の表彰式
を行う。
(6)吉岡弥生賞は、医学に貢献され
た方として橋本葉子先生、社会
に貢献された方として日野俊子
先生およびへき地医療に対して
村松忠子先生が表彰される。
(7)総会終了後 (一)女医の役割 (二)
地域医療と女医 (三)魅力ある女
医会とは について討論会を行う。
(8)昭和五十五年度決算及び事業報
告、昭和五十六年度予算及び事
業計画と定款施行規則について
種々審議していただき、会がま
ます発展するよう皆様と共に
協力していきたいとの挨拶あり。
物故者への黙禱
会員物故者二十名に慎んで黙禱

報告

一、会務報告及び事業報告

松岡宏子

配布済みの資料にもとづき報告あり

二、国際女医学会記念事業基金報告

事務所移転について 柳瀬路子 事務所移転準備委員会が物件を物色中に、ようやく渋谷駅から徒歩五分七分で宮益坂上(渋谷区渋谷二丁目八番七号)仮称宮野ビル三階の三〇一号と三〇二号とを購入することに決定。

今年九月末に完成予定である。なお、完成後の移転に全員賛成。学術研究助成について 小俣喜久子

医学分野の発展と向上を図り、後進の研究助成を目的とする。昭和五十五年度は三十二名の応募者があり、うち五名に学術研究助成を授与することに決定。

三、昭和五十五年度特別会計報告

守安 素女

吉岡弥生賞基金

年金

ルーペンダン

国際女医学会記念事業基金

以上について配布済みの資料にもとづき報告。

四、国際連絡書記報告

(1)一九八二年の国際女医学会第十八回国際会議はフィリピンのマニラで十一月二十一日から二十七日まで開催される。

テーマは、"Human Management in Medicine" 心ある医療と人間性のある医療である。

(2)国際女医学会第十九回国際会議は、カナダのバンクーバーと決定している。時期は六月中旬の予定。テーマは、"Man and Woman" 女と男である。

(3)ドイツ女医学会の提案で工業国の会員の会費を十%値上げし、発展途上国の会員の会費を六十%割引くことについては、会員は同じ権利を持つことから、やはり同じ会費を負担すべきであるとの提言をしたとの報告があった。

(4)国際女医学会の将来について(四十歳以下の会員が何名いるかの調査あり)。

(5)国際女医学会から、国際女医学会ニュースが発行されるので、会報等に掲載する考えである。

議長団選出

野村多賀子 米林梅子 西田富美

議事録署名人選出

佐分 妙 星野和子

議事

第一号議案

一、昭和五十五年度一般会計収支決算 守安 素女

配布済みの資料にもとづき説明あり 承認

二、剰余金処分案 守安 素女

剰余金九、〇八四、七〇三円

を次期会計へ繰り越すことを可決する 添田 百枝

会計監査報告

昭和五十六年四月十八日監査の結果適法かつ正確であることを認めるとの報告あり

第二号議案

昭和五十六年度事業計画案

庶務部 松岡 宏子

一、日本女医学会六十五周年記念式典(昭和五十六年十一月十五日)

二、会館移転祝賀会

三、二十五年永年会員表彰式

四、役員連統十年以上の表彰式

五、講演研修会 小俣喜久子

六、研究助成

七、吉岡弥生賞 丸山 芙実

八、事業部

九、へき地診療への助成

十、公衆衛生、社会福祉への助成

十一、支部助成

十二、年金

十三、ルーペンダン

十四、六十五周年記念に際し、バザーを開催する。

十五、渉外部 竹内 静香

十六、国内及び国際交流

十七、広報部 八木 貞子

十八、機関紙の発行(四、七、十、一月)

十九、六十五周年記念行事特集号発行

二十、以上 承認

第三号議案

昭和五十六年度一般会計収支予算

以上 承認

案

佐藤千代子

配布済みの資料にもとづき説明あり 承認

第四号議案

定款施行規則改正案 福永ひろ子 昨年から継続審議となっている定款施行規則改正案をもとに各章ごとに検討する。

第一章 会員 承認

第二章 役員 承認

第三章 役員の選出

(理事の選挙方法)

第十四条 理事の選挙は十名以上十五名以内の連記とするについて単記及び五名、十名、十五名等の各連記、十名から十五名との意見が出されたが、採決の結果十名連記と決定。

(役員の選出)

第十五条 常任理事は選挙後の第一回理事会において互選し機関紙に発表し、会員に知らせるものとする。

第四章 評議員および予備評議員 (評議員および予備評議員)

第二十六条 各地区に評議員および予備評議員一名を置く。

3 予備評議員は評議員に事故ある時はこれを代行する。

第五章 会計 以上決定

改正案なし

第六章 委員会 承認

第七章 国際連絡書記 改正案なし

よって、定款施行規則はすべて決

定し監督官庁に届出する。

第五号議案

次期総会開催地について 三神 美和

昭和五十七年の総会は東京。昭和五十八年の総会は岡山支部と決定。

閉会の辞

長時間にわたる審議に感謝の意を述べ、定款施行規則にのっとり運営する心算である。

来年は役員選挙の年にあたるので大勢のご出席を望むと結ばれた。午後三時三十分閉会

議事録が正確であることを証するため議長及び議事録署名人の署名捺印をする

野村多賀子 佐分 妙 星野 和子



新潟支部(新湯) 遠藤ハナ先生撮影 名古屋城お濠に泳ぐ白鳥

去る五月の総会において次
ぎのとおり改正されました。

日本女医会

定款施行規則

昭和五十六年五月三十一日

第一章 会員

(会費)

第一条 会費の年額および徴収方法は、総会の議決を経てこれを定める。

2 会長は、特に必要と認められた会員に対し、会費の減免をすることができる。

(資格喪失)

第二条 会費の滞納が長期とは三ヵ年とする。

第二章 役員

(役員)

第三条 定款第十四条に規定する理事は三十名、三十五名とし、うち常任理事は十二名とする。

第三章 役員を選出

(選出の総則)

第四条 役員を選出は、選挙によって行うものとし、特別の定めがあるものを除くほか本章の定めるところによる。

(理事の選出)

第五条 理事の当選は、上位得票順

とする。

(告示)

第六条 選挙の告示は、期日の九十日前とし、これを選挙人に通知しなければならない。

(選挙人・被選挙人)

第七条 選挙人は、選挙の九十日前までの正会員とする。被選挙人は、入会後三年経た正会員とし、会費完納者とする。

(事務)

第八条 選挙に関する事務は、理事会が管理する。

(選挙管理委員・立会人)

第九条 会長は、出席評議員の中から選挙管理委員若干名を任命し、委員は立会人を兼る。

(選挙管理委員会)

第十条 選挙管理委員会は選挙管理委員をもって構成する。

(選挙管理委員長)

第十一条 選挙管理委員長は委員の互選による。

(投票用紙)

第十二条 投票用紙の様式は理事会が定める。

(投票)

第十三条 選挙は、出席会員の無記名投票とし委任状による投票は認めない。

(理事の選挙方法)

第十四条 理事の選挙は十名の連記とする。

(役員を選出)

第十五条 会長、副会長は、選出された理事の中から理事会の互選と

し、総会の承認を得るものとする。

2 常任理事は、選挙後の第一回理事会において互選し機関紙に発表し、会員に知らせるものとする。

(監事の選出)

第十六条 監事は、総会において出席会員により選出される。

(監事の選挙方法)

第十七条 監事の選挙は単記とする。

(投票の無効)

第十八条 次の投票は無効とする。
(1) 正規の用紙を用いないもの
(2) 候補者氏名以外のことを記載したものの

(3) 候補者氏名の確認できないもの
(4) 定数を超えるものおよび定数にみえないもの
(5) その他、選挙管理委員会が無効と認められたもの

(立候補届)

第十九条 立候補者は選挙の告示があった日から選挙の日の六十日前までに立候補届を文書で理事会に届出なければならない。

2 前項の届出書類は下記のものとし、日本女医会規定の用紙を用いることとする。

(1) 立候補届
(2) 規定の履歴書
(3) 立候補辞退

第二十条 立候補者は選挙の行われる当日の総会開催前までに理事会に届出し、その候補者たることを辞することができる。

(候補者の告示)

第二十一条 理事会は候補者一覧表

を作成し選挙期日の十日前までに選挙人に通知しなければならない。

(候補者の掲示)

第二十二条 理事会は選挙の当日投票所の見易い場所に候補者の氏名を掲示しなければならない。

(無投票当選)

第二十三条 候補者の数が当該定数であるときは投票を行わない。

(当選人)

第二十四条 得票数が同数であるときは決選投票により当選人を定める。

(欠員の補充)

第二十五条 理事に欠員が生じたときは次年度総会において選出する。

2 監事に欠員が生じたときは次年度総会において選出する。

第四章 評議員および予備評議員

(評議員および予備評議員)

第二十六条 各地区に評議員および予備評議員一名を置く。

2 各地区は役員任期満了の年の三月末日迄に評議員および予備評議員を選出し、本部に届出なければならない。

3 予備評議員は評議員に事故ある時は、これを代行する。

4 評議員は正当な事由がない時の交代を認めない。

第五章 会計

(責任)

第二十七条 本会の会計は理事会が

責任を負うものとする。しかし、その出納事務を処理する職員は、その事務処理の限りについて責任を負うものとする。

第六章 委員会

(委員会)

第二十八条 会長が必要と認める場合に委員会を設置することができる。

第七章 国際連絡書記

(国際連絡書記の委嘱)

第二十九条 本会に国際連絡書記一名を置く。

(国際連絡書記の委嘱)

第三十条 国際連絡書記は正会員のの中から理事会がこれを選出し、会長はこれを委嘱する。

(常任理事会および理事会との関係)

第三十一条 国際連絡書記は、常任理事会および理事会のものとめにより国際女医会に関する報告および意見をのべることができる。

(任務)

第三十二条 国際連絡書記は、国際女医会および参加女医会との連絡にあたる。

(任期)

第三十三条 国際連絡書記の任期は、日本女医会役員との任期と同じとする。

付則

本施行規則は昭和五十六年五月三十一日から施行する。

総会開催地活躍の記

愛知支部



総会後記

森川みどり
佐藤千代子

五月末の名古屋にしては珍らしく肌寒い日でありましたがひたすら祈った快晴に恵まれ、お城と周囲一面の緑が塚にくっきりとその影を映す中に、全国からお一人、二人と懐かしいお顔の先生方のご到着をお迎えして、先ずはご無事でお着きになりましたことを心から嬉しく思いました。支部への出席お申し込みは一応二百五十名ともなりましたが、最終的には取り消し、欠席もあり、登録をされましたのは北は山形から南は大分までの二百十六名でいらつしやいました。私どもの予期以上の多勢の先生方のご参加でございました。

支部理事を主体として担当者三十六名、エンジ色リボンに白で日本女医学会愛知支部の名を刺繍した襷を外国妃殿下正装風にシックに着用し張り切って精一杯の努力をいたしました。何かと不行届きの点多々ありましたことと申し訳なく思っております。すべての行事が一応予定通り時間内に終了いたすことが出来ましたことは、会長先生始めご出席の先生方のご協力のおかげと存じ、まだ残照に映えるお城をふりかえりつつお帰りの先生方に感謝申し上げます。総会にお見送りいたしました。報告がごいますので省略させていただきます、討論会、懇親会、観光、運営についてそれぞれの担当者から報告させていただきますことにいたしました。以前からの念願でありました討論会も、会場一杯の多数の先生方から「今後女医会はこうありたい」とそれぞれ熱烈なご発言が続き、さすがに女医!と感激いたしました。今後形式は異っても皆で語り合う機会を持ちたい、そして言うのみでなくその願うところを形にして実行した

いと願ったことでした。「すべてに充実していた」討論会はいい企画であった「ご苦労様でした。差入れのグレイプフルーツゼリーの味が胸にしみた」と終了後、沢山の先生方からいただいた慰労のお言葉に担当者一同疲れも忘れる嬉しさでございました。

総会運営を地方で担当することは大変でございますが、今回、愛知

討論会

テーマ「魅力ある女医会とは」

司会 森川愛知支部部長
一、女性社会の中における女医の役割

座長

柳瀬日本女医会副会長
提言 名古屋市立大学衛生学教授 青山光子

自由発言
一、地域医療と女医

座長 福永日本女医会副会長
提言 愛知県環境部長

中尾初生
自由発言

一、魅力ある女医会とは
座長 山崎日本女医会副会長
提言 愛知県支部

佐藤千代子
提言

三神日本女医会会長
挨拶

県支部といたしましては「実質的に第一とし、心で欲待申し上げました」をモットーに計画実行いたしました。勿論、苦勞も多うございましたが反面、いろいろな意味で支部として開いてよかつたねという結論につきると思えます。ぜひお気軽に全国各地で総会を引受けていただきま

工藤 スエ

討論会は予定時間を四十五分も遅れて開始されました。愛知県支部としてはこの討論会を如何に盛り上げて実のあるものにするかについて、何度も協議を重ねてまいりました。時間が短縮されてしまったので、予定通りに進行できるかドキドキした気持ちでした。

第一のテーマ。「女性社会の中における女医の役割」での提言者である青山光子先生は、まるで少女の様に愛くるしいご容貌とは全く反対に開口一番から、さすがは教授でいらつしやるだけあって、その流暢なお話振りに感心してしまいました。

第二のテーマ。「地域医療と女医」での提言者である中尾初生先生は環境部長という重要なポストで、男性でも容易でない仕事をしておいでに

なるだけあって、堂々とした貫禄ある話術のお上手さは国会議員にでもなっていたきたいようでした。美人の中尾先生の発言ならばつわもの揃いの男性でもたじたじとなります。あろうと想像できること容易であります。こんな立派な先生が愛知県女医会においてなることを全国の先生方に知っていただけただけでも嬉しい気持ちです。ここでも自由発言になると待ってましたとばかりに発言希望の手が上がり、特に男医には出来得ない女医であればこそ出来得ることを見つけて、地域医療につくすということの大切さを強調された先生には全く同感いたしました。

第三のテーマ。「魅力ある女医会」について佐藤千代子先生のご提言につづいて、高知の先生から先ず女医会に入会し出席すること、出席すれば必ずそこに魅力を見出すことができることを声を高く強くしておっしゃいました。

予定通りにもう一時間あったならば発言したくてもマイクが廻って来なかつた先生からのご意見がうかがえて、もつと成果があったのではなにかと思われてなりません。魅力ある女医会作りには英知を出し合いたいというのがご出席の先生全員のお気持ちであることに会場の空気が一つに融和したようでした。同じテーマでもう一度討論会を開催してお互いの意見の交換をしたいと名残り惜しい閉幕でありました。

地域医療と女医の役割

—環境保全の施策決定に女医の立場から—

中尾 初生

環境庁が発足したのは、昭和四十六年七月一日、愛知県環境部は、同年四月一日、ともに今年で十年を迎えました。この十年間の環境行政の歩みをふりかえってみますと、全国的にみて一九七〇年代の公害防止対策で、一時の危機的な状況を脱し、全般には改善傾向にあります。大気汚染物質の窒素酸化物や内海や湖沼の閉鎖性水域の汚濁など、環境基準の達成困難な汚染因子は依然として横這いです。

一方、本県における十年間の環境汚染の推移をみますと、環境部発足当時は、産業活動に起因する大気汚染、水質汚濁などが深刻化し大きな

社会問題を呈していましたが、四十八年度を境として着実に改善されてきております。ただ全国の傾向と同様、窒素酸化物や伊勢湾湾奥部の汚濁は横這いの状態が継続しています。

公害対策を推進するに当っては、愛知県知事の諮問機関として、公害対策審議会、水質審議会および公害健康被害認定審査会などが設置されており、重要な政策決定に際して答申をいただいております。

もちろん公害対策に関する審議会の他、本県の重要施策について審議などをおこなう付属機関は、現時点で七十四種、一二四機関、設置されておりあります。このうち女性の占める割合は、一〇、八九％で、日本女医学会愛知県支部の森川会長をはじめ、佐藤先生、野畑先生、青山先生なども委員として活躍くださっております。ここに改めて感謝申し上げます。

本来、女性は本質的に母性につながるものとして暴力を拒否し平和を願うことにひたむきであり、地球のすみずみまであたたい心の交流を及ぼす存在として、本県のみならず、全国の政策決定の場の審議会などに、より多くの女性の参加を得たいものと切望する次第であります。

総会当日朝八時にホテルを二台のバスで新緑の熱田神宮へ出発、神宮でお出迎への先生方とも一緒に拝拝を受け、三神先生を先頭に垣内参拝、その後神楽殿において日本女医学会の発展を願ってご祈禱を捧げました。

毎年五月一日にのみ一般公開される雅楽を長谷権宮司にお願いして特別に観賞させていただきました。雅楽についてお話をうかがいましたのでその概略について記します。

雅楽とは、高尚にして優雅な音楽、朝廷の式楽の総称、散楽、俗楽に対し、雅正な音楽の義であり、奈良朝から平安朝にかけて宮中及び公卿あるいは神社仏閣で扱われ我が国のみに現存する世界唯一の音楽である。

当日は「神楽」と「舞楽」について観賞した。神楽は天の岩戸の故事に始まるといわれ、古来我が国で神前において奉奏された、雅楽の分類より見ると「声楽」に属し神楽歌が主体である。神楽歌のみの場合と、これに舞を振り付けた場合がある。通



雅楽

渋谷 朝子

常神社では後者を「神楽」として奉奏している。当日には

「神楽」「人長舞」其駒揚拍子」

宮中において御斉行になる御神楽の最後の一節 其駒揚拍子になると楽人の長が御鏡をかたどった輪のついた櫛を持って舞う。この部分のみを神楽「人長舞」として神前で奉奏する。



揃ってお祓いを受け垣内参拝へ



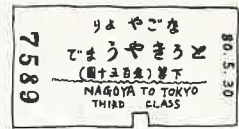
「雅楽」熱田神宮神楽殿

神楽歌 其駒ぞや、我に我に、草乞ふ。 草は取り飼はん、水は取り、草は取り飼はん。

舞楽は神功皇后の三韓征伐の後、大陸文化の一つとして我が国へ渡来した音楽である。雅楽の分類より見ると「器楽」に属し、曲目のみ奏する場合は「管絃」と称しこれに舞を振り付けた場合を「舞楽」と称する。「左方舞」と「右方舞」とがある。当日は「舞楽」「納曽利」「右方舞」

雌雄の竜が染しげに遊ぶ姿をかたどったもので襦袢装束をつけ銀色の撥をもった舞である。

私達は簡単に観ることの出来ぬ日本に保存継承されている雅楽を観賞することが出来て感激いたしました。



明治村

川原 昌子

総会前日の五月三十日に観光が四コースに別れて行われ奈倉、川原は、『明治村』へ先生方のお供をするこ

「明治村へお出掛けの先生はこちらのバスへどうぞ」とホテルキャッスルのロビーを声を囁らしてご案内し総勢二十一名が観光バスにゆつたり乗りこんで午後二時に出発した。出発前に森川支部長の挨拶があり案内の私達は自己紹介をといわれ「仕事で暇になって体力を蓄えることの出来たギネの二人が張り切ってご案内します」と車中和気霽々として賑やかに車は進み約一時間で明治村に到着した。

送られてチンチンと近しい市電に乗りこむ。超速度の現代にもこうした乗物があるかと非常に嬉しく、車中先生方は喜々とされ北里研究所、幸田露伴住宅、西園寺公別邸、と通りすぎ品川燈台が終点だった。車外に出た見物客全部を待つて発車、電話局がちょうど中間でそこを通りすぎ

ている日本女医会愛知県支部と書かれたピンクの襷を咄嗟に示した。「お Doktor でありますか……なに全国からと……よう参られたナ」と見ている日本女医会愛知県支部と書かれたピンクの襷を咄嗟に示した。「お Doktor でありますか……なに全国からと……よう参られたナ」と見

新大橋を左手に見て、
「銀杏返しに黒襦子かけて泣いて
別れた隅田川」
と口ずさみ、呉服座を覗き昔の酒肴持参の観劇場面を想像、半田東湯で長繻絆を肩からすべらせて立っている日本髪の人を思い浮べ、日本赤十字病院、三重県庁舎を通り大井牛肉店へ、空腹を覚え「牛鍋」を食べたいと思つたが時間切れで舌なめずりをして残念無念。閉村が午後五時でゆつくり見物出来なかつたが先生方

五月末とは思えない程の、涼しいさわやかな三十日午後、はるばる遠近各地より参集されました諸先生方二十六名で、和紙のふるさと小原村を訪ねました。小原村は、愛知県北部に位し、昔から和紙原料の楮の育成に適し、古く室町時代より紙の村として知られて来たのですが、生活様式の変化により、全国的に和紙の需要が減少し、衰微してしまつたのを、戦後、故藤井達吉翁が、良質の和紙の素材を生かし、それに創造の要素を加えられて、今日のような工芸和紙、美術品の域まで高められ、その後、多くの継承者により一層の発展をなして来たのです。

小原村観光にお伴して

荻谷 愛

は充分満足していただいたようだった。帰途、諸事に通ずる案内人の意見が一致し、かの有名な田県神社へ廻つてもらおう。ご神体を見て驚き、感心、もう一度若返らねばとのご発言あり。観光コースのうち一番先にホテルへ帰つたが先生方にご挨拶して足の疲れがじわじわと襲つて来た二人は塵に汚れた顔を見合せてホットしました。

その名にふさわしい緑したたるグリーンロードを観光バスで走ること約一時間半程で、山あいの、のどかな田舎、小原村の工芸作家、安藤繁和先生宅に到着。早速、ご子息とお嫁さんお二人の素朴な手作業による紙漉きの実演を拝見したあと、字漉きの実習をさせていただく。楮の皮をソーダで煮て、細かく打った液に、ドロアオイの根を砕いたドロドロの汁をよく混ぜ合わせて作られた原料液、先ず最初は紺色に着色された原料液を、懐大のすこの上へザアツとあけて、お二人がその両端を交互に前後へゆすっている中に紙が漉かれてゆく。次に今度は白色の原料液を

その上へ流し込んで漉いた紙を、手早く、物差しと細い角材で、色紙大に区切つて下さる。その紙の上へ私達が各自に好きな字を一字か二字、指で勢よく書き込みますと、上層部の白い原液がとれて、下の紺色をした字がきれいに浮かび上るといふ具合です。皆さんなかなか見事な達筆で素敵なお作品が生まれました様子。一番多かった字は「和」。和紙の和、それとも平和の和なのでしょうか。作品を天日で乾燥させるべく屋外に運んでいただいてから、主屋で作家安藤氏の作品の数々を見せていただく。屏風、喰籠、手箱、盆、銘々皿、茶托等々、いずれも和紙と漆により丹精こめて作られた美術工芸品で、茶道のわび・さびにも通じるその洪く暖かみのある独特の美しさに魅せられました。その上、とても堅牢で落してもわれないうし、熱いものを載せても変色しないとか。

ただ、やはり手作りの工芸品のため高価で、厳しい医療状況の下にある私達には、おみやげに一つと気軽に買求められない、恨みはありますが、それでも風炉光屏風や額入りの絵等お買求めにいられた先生方もちらほら。うちわとか書道用の和紙等は飛ぶ様な売れ行きでした。騒がしい都会での毎日の忙がしい診療の明け暮れから解放されまして、手づくりのぬくもりを感じさせる和紙と、山紫水明の山村ののどかさ少しでも心の安らぎを覚えていただけたならば、幸甚でございます。

幸兵衛窯見学記 (瀬戸)

伊藤 二葉

五月三十日午後二時十分、ホテルキャッスルを愛知県支部長森川みどり先生方に見送られて出発いたしました。総勢三十五名を乗せたバスは一路、名神高速道路から中央道に入り多治見市へ向いました。約一時間の車中、幸兵衛窯の経歴をコピーしたものと、ご長男の卓男氏のペルシヤ陶器再現のラスタール彩の葉を各自におくばりして予備知識を持っていたべくよう配慮いたしました。この度見学いたします幸兵衛窯は瀬戸市と県境の岐阜県側に位置し、徳川家斉の頃から今日に至るまで続いた由緒ある窯で徳川幕府本丸御用窯としてまた、昭和三年以降は宮内省のご用達を受けており最高級品の茶陶と食器を作っているところ。現在は、四代目の幸兵衛氏が高齢ながらも健在。五代目を継ぐべき長男の卓男氏は古代ペルシヤ陶器の研究者としても有名で、目下のところペルシヤ風のラスタール彩と青釉の作品に没頭しておられ、さらにお孫さんにあたる裕英氏も新進作家として活躍中とのことで、三代揃った陶芸一家です。

一行が到着いたしますと卓男氏はじめ奥様、若奥様方が出迎えて下さり、早速一同を、美濃地方の豪農家を移築した純日本調の展示室の奥の部屋へ案内下さり、そこで卓男氏から陶器について興味深いお話を拝聴いたしました。殊に日本史と関連しての陶器の発達また、ペルシヤ陶器と織部焼が意匠的にも余りにも似ている不思議さを卓男氏の私見として面白く流暢にお話下さいました。時間の都合で初めに三十分とお願いいたしましたことが悔まれる位でした。次にご三方の見事な作品が展示されている部屋へ案内され、それぞれの作主の個性豊かな作品に一同感嘆いたし一つ一つ丁寧に拝見いたしました。他に幸兵衛窯の高級食器が適当なお値段でわけていただけましたので多くの先生方がお買求めになられました。また有志の方々が絵付をなさり楽しまれましてこれは後程窯に入れ完成後は各人宛に送って下さる由でした。短い半日の小旅行にお供いたしました世話係として不行届のことばかりでしたが無事予定時刻にホテルに到着いたしました。

有松絞

加茂 裕子

昭和五十六年五月三十日、三十一日に、日本女医学会総会観光のコースとして、「有松絞」の見学、お買物にご案内した際の模様をご報告申し上げます。五月三十日、参加会員十九名、午後三時、ホテルナゴヤキャッスル前より六台のタクシーに分乗し、名古屋市戦災復興道路計画南北線で一番幅広く出来た国道十九号線を通り、つい半月位前迄は、赤や白の花が一杯咲いていたつじや、並木の新緑を眺め、途中車窓から些か沿線の見学をしました。東京の「浅草の観音さま」にあたる寺である「大須の観音さん」と親しまれる宝生院(大須観音)は創建は南北朝時代である。もとは美濃国大須庄にあり、栄えた。慶長十七年(一六一二)、徳川家康により現在地に再建された。以前の堂宇は戦災で焼失したが、昭和四十五年に両翼楼をもつ重層の本殿が再建され、朱塗柱の鮮やかな堂々とした構えを見せている。この寺に残る真福寺文庫は日本最古の古事記写本をはじめ和漢の古書一万五〇〇冊を収蔵し、わが国でも

特に貴重な古文書の宝庫として有名である。国鉄金山総合駅予定地は、東海道中央線名鉄の分岐点で、現在は都会の谷間凹地である。高座結御子神社は、虫封じに効くという「井戸のぞき」で有名であり、白鳥古墳は、白鳥となつてこの地に戻った日本武尊の墓といひ伝えられている。熱田神宮は、人ぞ知る三種の神器の一つである草薙の剣を祭り、古来皇室から伊勢神宮につぐ崇敬をうけている。熱田神宮南から国道一号线に入り、車の往来一層激しく、旧東海道の名残りは車窓からはほとんど見られないうが、有松は江戸末期の土蔵造りの町屋が一〇数軒残り、伝統的建物群保存地区に指定されている。この地に慶長十三年(一六〇八年)移住し有松絞りを創始した竹田庄九郎氏の末裔でいらつしやる竹田嘉兵衛商店に到着したのは、ホテル出発後一時間二十分位でありました。女医会員であり、ご当家のご親戚(山口銀子先生も同様ご親戚で、三十一日にご案内役をさせていただいた)である森島かよ子先生のお出迎へも

うけ、素晴らしい沢山の絞り和服が飾られていた本宅のお座敷で、ご主人から有松絞りについて説明をうけました。絞りは紀元前二五〇〇年、シルクロード東端トルファン・アスターナで出土しており、我が国には、景初二年(二三八年)渡来すと「古事類苑」に記され、飛鳥時代、黄地縹縹布、赤地縹縹布等正倉院宝物に有り、応仁の乱以後は、一般女子も着用するようになった。種類は、括り絞り、縫絞り、桶染絞り、板締絞り等があり、なかなか手間のかかるものとわかりました。慣れた手つきの実演、和服地、絹や木綿の洋服地、ネクタイ、袋、帯揚げ、既製服、藍染めの場所等々いろいろ見て、離れ座敷で抹茶の接待も受け、お買物の済まされた方から、逐次タクシーで、五時半位迄にお帰りいただきました。三十一日は、前日ご都合の悪くなられた方や、新しく参加された方、合せて四十三名、熱田神宮での雅楽観賞後、十時半頃貸切バスで出発し、総会までの限られた少い時間のため、車中から絞りの話し一色であり、フアッシュンショーの一幕もあり、到着後は、専属デザイナーのアドバイザーも受けたりし買物され、昼食も大急ぎとなり、どうにか一時間開催の総会に間に合つて帰りました。





懇親会

山本美代子

第二日目の午後「魅力ある女医学会とは」で気合のこもったはげしい討論のあと、舞台は最後のお別れパーティ青雲の間にうつった。

会するもの百七十名、三神会長の挨拶、そして山本杉先生の乾盃の音頭で、全員盃をかかげ、また来年の再会を約して、女医学会の益々の発展を祈る。車椅子でご出席下さいました岐阜の松波支部長、本当に有がとうございました。屋台をめぐり、おすし、きしめん、やきとり等をたべ人、お料理に舌鼓うつ人、和やか



乾杯!! 会長先生の若々しいポーズにご注目!!

な会であった。佐藤千代子理事の、名司会のもとには時々刻々とすきて行く。



登録係からの報告

荻谷 愛
佐分 妙
橋川ふさ子

舞台上では愛知県の無形文化財の長久手村の「棒の手」が手に汗にぎる熱演のあと、守安理事と、高柳理事(支部)のリードで、全員で「夏はきぬ」と「かつこー」の輪唱を川島理事のピアノ演奏で、全員がうたい、最後に謡曲「高砂」を三神会長先生の地頭で十段名で連吟して会のフィナーレを結び二日間に亘る総会の幕はおりたのである。

登録が、総会への出発点である。出来るだけスムーズに、皆様には気持ちよく出発していただきたいものと念じていた。そのためにと係の者一同は、それぞれの智慧と努力とを提供して、お待ちした次第である。登録受付が、二日間に亘ったためか、二度も署名して下さった方もあり、また一方では、非会員に声をかけてしまう程の失礼を重ねてまで、注意を喚起していたのに、未登録者があったことは、どうにも解せないが、何はともあれ、不行届きなことであった。
急に不参加となられた方で、その由のご連絡をいただいた方は、有難く思ったが、何のご通知もなく、何時迄も残っている机の上の名札の数

々には、受付を閉じて、総会会場へ出席することも出来ず、理由はどうであれ、疑問を懐かせられたのは、係の者ばかりであろうか。私どもは医師であり、その会合であったことを思うと、多忙な毎日であればあるだけに、気を付けなければならぬことと痛感した。
登録受付の作業には、不馴れなためだけとは申せぬ失礼の数々を重ね、諸先生には大変ご迷惑をおかけした点、お許しいただきたく、最終的にご署名いただいたのは、二一六名の多数にのぼり、大過なく会にご参加いただけたことで、私どもの疲れも吹き飛んだ思いであったことを感謝して、報告とする。

宿泊を担当して

坂堂美都子

第二十六回日本女医学会総会を愛知県で開催と支部理事会で決定と同時に私の脳裏に浮んだのは愛知県支部発会后二年にしてお引受けした日本女医学会総会当時の様々の思い出である。十数年前になるが森川会長も私達理事も皆ともに若さに張りきってその準備に東奔西走したものである。その頃から考えれば支部も齢を重ねるとともにかなり成長しているはずである。何とかして皆様に喜んでいただける会に盛り立てて行きたい。この秘かな決心を知るや知らずや役割担当で私の所へ宿泊がまわってきた。何とかしてこの難役からのがれたいと願ってはみたが私に当たった有難くない白羽の矢は動かし難くかくなる上は、全国からお集りの先生方に少しでも快適にお泊りいただき愛知に楽しい思い出を残していただくよう、私には全く不向きな宿泊係という裏方に徹しようと決心した。先ず先生方のご希望を充分に取り入れた完全な名簿を作ることが先決問題である。そのために副支部長の近藤和子先生に特にお願いして宿泊係へ入っていただき、早速に名簿作りを始めたが、公私ともにご多忙

を極めておられる先生方、また家庭の都合に左右されがちな主婦の立場を持つ先生達には色々宿泊事情が変って来られ、そのたびに名簿は何回となく書きかえられ、毎日、夜となく昼となく各地へ電話で問い合わせ納得の行く迄名簿を整理したおかげでまだお目にかかったことのない先生方のお名前が全部頭に入った頃ようやく何とか自信の持てる宿泊名簿が出来上った。そして心配していた当日のキャンセルもただの一名にとどめる事が出来、大したハプニングもなく無事総会、観光を済ませ、五月三十一日懇親会後その楽しかった興奮もさめやらぬ面持でお元気に帰って行かれる先生方をお送りして始めて肩の荷をおろしほっとしたことでした。が果してホテルナゴヤキャッスルにご宿泊の先生方にどれだけご満足いただけたことでしょうか。思えば総会当日迄役員の先生方とともに何回となく準備を重ねながら色々心くばりはしたつもりでしたが、このようなことには全く不馴れのため行き届かなかった点は何卒お許しいただきたいと思えます。

日本女医会優功賞をいただき

目黒支部 小野 春生

このたび日本女医会の優功賞をいただき、まことに光栄と同時に恐縮に存じます。本当のことを申し上げますと何故頂戴したのかよく存じません。私といたしましてはごくあたりまえなことをして参ったと存じますので少々恥ずかしいでございます。今から二十余年前、佐藤やい先生が日本女医会会長でいらした頃、日本女医会の国際連絡書記をするようにとおっしゃったのでおよばずながらお引受けしました。

国際女医会のバーデンバーデン(ドイツ)会は第二次世界大戦が終つて、はじめて日本女医会が参加した会でした。世界の人々がどんな目でも見るか、とても心配でした。ご一緒して下さった先生方に生意気なことはかりを申し上げました。若いのに申しわけないことをしたと存じお詫び申し上げます。あの時は少しでも他の国の方々に後指をさせられないようにという思いでいっぱいでございます。グループの皆様のお陰で大変受けがよかったです。川那部喜美子先生をはじめ諸先生方に感謝いたしております。その後は国際女医会の幹部の先生方のご推薦、ご依頼でいろいろ役職をさせていただいてお

ります。今は国際女医会会長のご依頼で財務委員長をお引受けしております。これを機会に国際経済を勉強しております。二十年前には思いもかけないことになってしまいました。これも皆様のお陰と存じております。いろいろな国の方にお会いすると

日本人では無いことは存じておりますが外国に行く時は日本人の良い所を出さうととめております。日本人の悪い点はなるべく家において行きます。人はともすると一人の日本人を見て全部を評価します。日本人として恥ずかしい行動をするのが日本人一人一人の責任かと存じます。最近の日本の進歩、発展は驚くべきものでございます。この時こそ国際交流が大切かと存じます。私も

およばずながら一生懸命国際交流に励んで来たつもりでございます。幸いに指導をして下さる方々が多くとも感謝いたしております。中でも日本国際医学協会会長の石橋長英先生は日独医学交流にかかすことの出来な

い方でいらつしやいます。その石橋先生が心を大きく持つようにと教えて下さいました。気が小さくなるまでよくよする私は心が大きくなるまでまだまだ努力を必要としますが一步一步前進しているかと存じます。そのほか日本女医会の先生方もいろいろとご指導・お励まし下さいました。どうか今後もよろしくお願い申し上げます。心から感謝いたしております。

今の国際情勢は、とても気になります。皆と一緒に仲良くするには他の国を理解するのも大切ですが世界人としての責任、義務をはたすことも大切かと存じます。どうか日本女医会からも日本人として恥ずかしくない、責任感のある、人に好かれる会員をどんどん送り出して下さいませようお願いします。

この光栄ある日本女医会優功賞は決して私一人のものではございません。外国で、または東京で国際女医会に参加、協力して下さった会員全員のものかと存じます。皆様のご援助があつてこそ日本女医会が国際的にここまで来りました。本当に皆様のお陰でございます。私は全員の代表者として賞を受けたかと存じます。しかしこれを良い機会としてもっともつと国際的な勉強をし、国際交流をますます盛んにしたいと存じます。本当に有難うございました。

へき地診療に対して表彰を受けて

愛知支部 村松 忠子

先般本年度日本女医会総会の席上、私の三十四年間のへき地診療につきまして表彰状と助成金一封を賜りまして、戸惑いましたが、深い感謝の気持ちで有難く頂戴いたしました。

厚くお礼申し上げます。当村は愛知県の北端、長野県境の標高七百メートルの盆地で略平な人口三千人足らず(現在は二千二百人)の寒村ですが人家は大体連つており、商店の多い町並が二カ所にあります。山深くの部落はありません。山の奥の奥に突然開けた広々とした空と見事な広い水田、これを取巻く美林に初見の方は驚いて、まさに桃源境だといわれます。

表彰状には唯一の医師としてと表現されておりますが、どうしてどうして、当村は百年前から医家が二軒ずつと世襲で続けられています。そこに私が戦災後に帰村しまして、大都市の人居制限が解けるまで二年間はと遊んでおりましたところ、村人が何かと相談に來られ、段々信用される様になりました。ついに関業せざるを得なくなり、郡医師会長に相談にゆきましたところ、貴村は医師の密度は都会並で多すぎる位だから、郡医師会としては困るけれども、耳鼻咽喉科は四十軒以内には無いのでこれを失うのは得策ではない。条件

付で開業してくれ、といわれ私は耳鼻咽喉科、小児科のみいたしますと玄関に標示して始めました。しかしお二人の医師は気儘で留守勝ちで、その間に怪我人も出るし、小児の脱臼もあるし、心臓発作に腹痛患者と押付けられて、二、三年の間に診療制限もなしくずしとなり、内科は私方に殺到する状態。昭和二、三十年代の国民の暮しの中では子供の異状に気付くのが夜の八時九時、腹痛往診は夜半、その度に私方の有線電話が八番八番と呼立てられると同回線の町内中が皆起こされる。一体お宅は眠る時間がお有りですかと近所であれ果てる始末。病室は満員、往診も多く、未舗装の県道で自転車二台、オートバイ二台を乗り潰して、三十九才から六十二才までは不眠不休、保険事務は徹夜で仕上げる。その頃同居していた母が、「三人分も働いてはお前は私より先に死ぬ」と涙を流しましたが不思議に病氣もせず、常に四、五人いてくれた従業員達も皆一度も病氣せず、私と心を一つにしてよく尽くしてくれました。ずっと通していてくれる看護婦二人は四十年と三十年勤続になります。最近はお年の私を両側から支えて、忠実に万端取り仕切ってくれています。

吉岡弥生賞を受賞して

東女医学内支部 橋本 葉子

六十二才になって仕事を重荷に感じ出した頃、天の授けか、東大出の内科のバリバリの先生が帰村、開業されました。やれ嬉しやで、内科の病人には皆さんあの先生のところにとお薦めして大分肩が軽くなりましたが、耳鼻科小児科は他町村からも多く来られますので、いまだに規定時間中は動いてばかりおります。

元来私は幼少時お向いの医家の友達のおへ遊びにゆき診療室、薬局と遊び廻り、医業は何という面白い物かと子供心に憧れておりました。十三才の時母から女も職業を持つ時代が来るから何になるかといわれた時はさすが医者と答えました。好きでなつたこの仕事は、やってみればさらに面白く、自分の全力を出してぶつかれば病気はそれに答えてくれるし、誠心誠意でやれば患者さんは命を預けてくれるものと知りました。

内科医の兄は、そういうのが吉岡イズムといふのかなあと感心しました。私は医局で佐藤イクヨ先生の真摯な診療姿勢を見て教えられ、弥生先生のお言葉が好きで修業して来ました。そして好きな仕事にのめりこんで家庭も作らず、傍目も気にせず、七十四才の今日、残りの気力、体力の続く限り一日一日を積重ねてゆきたい。そして最期に、これで思い通りの一生を貰いたと自分だけで満足して逝きたいものと思っております。

最後に先輩諸先生、その他の諸先生のご厚意に深くお礼申し上げます。

翠深まる五月三十一日、名古屋市のホテル・ナゴヤキャッスルの銀の間において、第二十六回日本女医学会総会が催され、その後種々の表彰式が行われましたが、名譽ある吉岡弥生賞を若輩の私が頂戴する光栄に浴しました。この吉岡弥生賞は、日本女医学会誌第八十六号、吉岡弥生賞規定にも記載されておりますように、医学学術面で貢献した会員および社会に貢献した会員それぞれ一名ずつ選出されることですが、私はその学術面でこの賞を授与されたわけです。

私の専門分野は脊椎動物網膜の神経回路網の研究であります。この解明のために、電気生理学的な手法と組織学的手法を組合せた技術、および、一ケの視細胞の中に含まれる感光物質を測定するための、顕微分光光度法を応用する等、種々の技法を用いて研究を進めて参りました。最初は光学顕微鏡のレベルで機能と形態の対応をつけておりましたが、現在は電子顕微鏡のレベルで細胞間連絡様式を論ずることが可能になって参りました。ご承知のように脊椎動物網膜の大部分は桿体と錐体の両者を含む混合網膜で、これらが第一



とも私が現在実験材料に用いておりますウグイ網膜では、これら二種類の水平細胞は、終末部の形態が異なる錐体に連絡していることが分つて参りました。図はこの知見を示す電顕像です。図の左は色弁別機構を持たない水平細胞の細い突起が一ケの錐体終末部に入り込んでいる様子を指示したものの(黒い点々が水平細胞の突起を示す)、右は色弁別機構を持つ水平細胞の細い突起が三ケの錐体終末部に入り込んでいる様子を指示したものです。図右下の黒線は夫々1μmを示しております。このように生理学的に性質の調べられた細胞一ケを色素で染色し、それを電顕的に検索することにより、この細胞と連絡する細胞を同定または推定することが可能になり、これらを丹念に追

この度思いがけず吉岡弥生賞を受賞いたしました。筆紙に尽せぬ有難さ嬉しさに感激いたしました。生涯を通じて師と仰ぐ諸先生のうち最も深く忘れ得ぬ先生、誠の心仁愛と勇気を私に植えて下さった大恩ある母校創立の吉岡弥生先生です。朝夕神仏を拝する時彷彿と思ひ浮かぶ師の面影、今日ある私にご指導賜つ

吉岡弥生賞を受賞して

大分支部 日野 俊子

た先生、心から深く深くお礼申し上げます。私の家は代々医家でした。今四代目ですが、亡夫のあと子も孫も医を継いでおります。私も老令ながら病院を手伝い充実した日々を過ごしております。卒業以来すでに六十年余になりその間様々な目にあつて来ました。

在京中最も忘れ得ぬ大事件は正

MWIA NEWS No. 2

一九八一年春季号

国際連絡書記 山崎 倫子(訳)

国際会長の挨拶

私の最初の公式メッセージをおくります。どの会長もその任務遂行に当り個人の信条を基にしてその責任を考えますが、私にとって、それは「平和」ということです。

女性と子供にとって最も大切なこと、それは「平和と公正」であると、皆さんもお考えでしょう。

また時には駕籠にかつがれ、そしてテクテク山越え野越えしたものです。ただ医は仁術を目標として腕を磨く事に専念、診療代等は人によって、あてにせず、いつでも出来る時にというようなことでした。大正十四年アメリカ帰りの画家と結婚して四人の子供が生まれましたが、夫は早く世を去り、私はずっと郷里で医術にたずさわってまいりました。少しは郷里の皆さんのお役にたつたのではないかと思います。

もうすべて遠い昔話となりました。この度の受賞は、故先生の教えを守り通した余生の幸いで、何物にもかえ難い賞として私はもとより日野家のご先祖も、さぞかし喜んで下さると思います。終りに臨んで日本女医学会のますますの発展を心からお祈りいたします。

国際会長の挨拶

Redshaw 会長はバーミンガム会議のあと、ドイツ各地を旅行、その後カナダへ向いバンクーバーで開かれたカナダ、オーストラリア合同医師会議に参加、カナダ女医学会年次総会にも出席した。

Redshaw 会長はバーミンガム会議のあと、ドイツ各地を旅行、その後カナダへ向いバンクーバーで開かれたカナダ、オーストラリア合同医師会議に参加、カナダ女医学会年次総会にも出席した。

ナイジェリアにおける MWIA 事業 MWIA は母子保健委員会からの要望を承認した。この事業は二年間に亘ってナイジェリア農村地域の幾つかの村落を対称とし、母親の産前産後の保健、新生児、乳児保健、及び家族計画の指導を行うものである。

二室からなる小さな診療所を入手したが、器具と水のタンクが必要である。職員は二人の助産婦で、それぞれに年間4,500米ドルの給与を支払う。その監督にあたる医師はイバデンの大学病院から派遣されることになる。

この事業の経費は、年間一万ドルと概算され、さらに初年度は器具、水タンク等の設備費が加算される。この事業基金はチューリッヒに設置され、委員長、会長、会計を経て金が

国際関係

前会長 Dr. Beryl Corner は三月ジュネーブで開かれた、小児地方の国際的規約に関する WHO・UNICEF 合同会議に専門顧問として出席した。

Dr. M. Kyrie、MWIA 名誉書記は五月、ニューヨークで開かれたユニセフ理事会に出席した。Dr. Kyrie は現在本部がウィーンにあるユニセフのオーストリア、ユニセフ委員会の委員長を数年に亘ってつとめている。

国連婦人の十年中間年世界会議が一九八〇年七月十四日から二十八日迄コペンハーゲンで開かれたが、MWIA からは Dr. Helga Thime (ドイツ) Dr. Saty G. Keswani (アメリカ) Dr. Siebrit Christiansen (デンマーク) の三人が代表として出席した。国連本部の許可を得て MWIA の声明書を二百五十部会議に配布した。五十九カ国の女医からなる ECOSOC・WHO・UNICEF の諮問団体であることを紹介。会

の目的は (1) 世界中の婦人が医学及び関連科学の分野に参加することを奨励し、促進し、彼女等の受けた医学教育が充分生かされること (2) まだ残されている男女医師間の報酬、専門職務追求における差別をなくすこと (3) 健康増進を目標とする活動を促進、奨励すること (4) 女医に対する援助、特に発展途上国の女医に対して奨学金、研究の助成、また学術会議に出席できるよう旅費の援助等 (5) 自然環境と社会環境が相関して身体的及び精神的健康に及ぼす影響を認識し、地域における健康教育の重要性を確認すること、を紹介した。なお家事を併行してゆかねばならない婦人のために、パートタイム制の卒後教育及びパートタイム制の就職の機会ができるよう MWIA の要望を提出した。

宣伝及び PRR 委員会

それぞれの国で開催される国際的会議に MWIA を代表して出席できる会員は連絡書記を通して氏名を連絡されたい、MWIA と、UN、ユニセフ、WHO 等にはぜひ可能な方は出席してほしい。

カナダの Dr. Bernice Wyle は MWIA を代表して一九八〇年八月、国際大学婦人連盟の第二十回総会開会式に出席した。

Dr. Gloria Cochran (アメリカ) は MWIA 代表として汎アメリカ健康会議に出席、また WHO の地域会議に

出席した。

Joan M. Redshaw (抜粋)

参加した。この会議は西歴二千年を期して、全ての人が健康にを目標としたものである。

Dr. Hildagard Stitz は第十四回 C I O M S (世界医科学委員会) の円卓会議に M W I A 代表として出席した。この会議は十二月、メキシコ、シテイで開かれ、テーマは「医学教育と医の倫理—臨床医学研究、教育及び政府との相互関係について」であり、Dr. Stoltz は「女性に関する研究の倫理的事項」について二十分の講演を行った。

お祝い

Dr. Maria Brasilia Leme Lopes (ブラジル) は一九八〇年六月ブラジル国立医学アカデミーの名譽会員に選出された。Dr. Lopes は血液研究所と血液銀行の創立を監督された学者で、元ブラジル女医学会会長である。Dr. Helga Thiemé (ドイツ) 元 M W I A 会長はドイツ婦人委員会の委員長に選出された。任期は三年である。これは最大の婦人の親団体で、一千万人の婦人を代表するものである。Dr. Chien-tai Chiang (台湾) は台北家族計画センターの所長としての優れた業績に対して、台湾の傑出した女性十人の一人に選ばれた。

各国の行事としてはカナダ、イタリヤ、アメリカ、オランダ、ドイツ女医学会の年次総会、学術集会の報告がある。日本女医学会がユニセフに百万円の寄付をしたこと及びインドシナ

難民に六拾万円の寄付をしたことが報告されている。

会員の動向

Dr. Babil Stray-Pedersen (ノールウェイ) は一九八〇年二回イタリーの産婦人科学会に招待演者として出席した、また五月にはミランでトキソプラズマ、シンポジウムに出席した。一九八一年に再びイタリアとオーストリアに出かける。

Dr. Helga Thiemé (ドイツ) は、二億二千万人の婦人を擁する中華人民共和国の婦人連合会の招待により、ドイツから三人の婦人代表の一人に選ばれ中国を訪問した。

Dr. Joan Ford (カナダ) は一九八〇年秋、ネバールの St. Edmund Hillary Hospital に代診として六週間を過ごした。

Dr. Alma Dea Morani (アメリカ) M W I A 会長は、婦人形成外科医の国際的調査を行って一九八〇年十一月に報告を行った。

Dr. Rinko Yamazaki (日本) 大学婦人協会会長は一九八〇年十二月日本で開かれた国際ユネスコ、セミナーに出席した。また一九八一年六月アメリカ、サラトガスプリングスで開かれる汎太平洋東南アジア婦人協会の国際会議に出席する。

Dr. Trinidad Gomez (フィリピン) 次期会長は一九八一年一月、ジュネーブで開かれたWHO主催の「健康管理における婦人の役割」会議に出席した。

Dr. Solange Troiser (フランス) は一九八一年一月、西カナダで開かれた、刑務所医学会の国際パネルで三人のバネリストの一人として参加した。Dr. トワジエはパリ大学の刑務所医学の教授で、フランス監獄の総監督官である。さらに彼女はフランス婦人委員会(約三百万人の婦人団体)の委員長であり、刑務所医学国際理事会の理事長である。

Dr. Siva Chinatamby (スリランカ) は政府企画庁の顧問として、医師、看護婦、その他の医療専門職の教育訓練機関を計画中である。

Dr. Joy Seager (オーストラリア) は彼女の十七年間の記録を、「Kangaroo Island Doctor」カンガルー島の医師と題する図書を一九八〇年五月に出版した。

他に Dr. Pedersen 共著、貴方と私、Dr. P. Budoff (アメリカ) 「月経痛よサヨウナラ、その他グッド・ニュース」 Dr. Haycock (アメリカ) 編集の「女性運動家のためのスポーツ医学誌」の紹介あり。

追記

ぜひ送ってほしいニュース、会員の動向等山崎までご連絡下さい。

学術研究助成のご案内

— 学術部 —

会員の学術研究に対し助成事業を行っております。希望者がありましたら、応募要項にしたがって、事務局あて申請下さるようお願い申し上げます。

- 一、助成の趣旨
医学分野の発展、向上を図り、後進の研究助成を目的とする。
- 二、助成金額
総額一〇〇万円(二、四件)
- 三、申込手続

- (1) 応募資格
日本女医学会会員(新規加入者を含む)で個人、またはグループ(ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割をになうものであること)
- (2) 助成期間
一年を原則とする。継続を必要とする場合は改めて申請を要する。
- (3) 応募方法
本会所定の用紙に、黒インキで記入。
正一通と副一通(コピー)を

- (4) 申込期間
昭和五十六年十二月二十五日必着
- (5) 選考及び発表方法
選考委員会において選考の上、昭和五十七年三月末開催の日本女医学会理事会において決定し申請者宛通知する。
- (6) 助成金の贈呈
昭和五十七年五月三十日開催の日本女医学会総会の席上
- (7) 受賞者の本会に対する義務
昭和五十八年三月末日までに研究経過報告(B5原稿用紙三枚)と助成金使途についての簡単な収支報告の提出のほか、後日、日本女医学会主催の研究会において研究内容について発表をすること。
- (8) 送付先
日本女医学会本部

原稿募集

六十五周年記念特集号発行に際し原稿を募集します。

広報部

支部展望 東京都

板橋だより

上板橋三十年

板橋支部 大畑 信子

昭和二十七年、私が始めて上板橋駅プラットホームに降り立った時から早、三十年。十年一昔と申しませんが三昔になると思うと、本当に感無量と言うより他ございません。

その頃の上板橋駅は本場にちっぽけな駅で、跨線橋も狭くて張ってある板もあちこち穴があいており、そのうらさびた風情は全く田舎の小さな駅を思わせるものでした。現在上板橋病院の建っている場所は、当時ずっと広がる麦畑の一角でそこから駅へ歩く人が見える状態でした。駅迄二百五十米位の所ですが駅迄の家も数える程しかありませんでした。私の故郷はここから東上線で二時間ばかり行った埼玉県寄居町です。このさえない上板橋も我が故郷をつなぐ東京の一角であり、しかも池袋に近い所なので、何かひなびた町づくりの中にもこれからの発展が期待できるのではないかと思ひ、ここに住む事に決心したものでございます。

それから早、足かけ三十年。今は、上板橋病院長として地域医療等の一線にたっておりませんが、上板橋も次々と立派な家が出来、お店も出来て

すっかり賑やかな東京の町に変貌いたしました。

昔は板橋村と呼ばれた板橋区も、その面影を残す所は僅かとなりました。駅前前の都民銀行の所は、古い今にも倒れそうなボロアパートが立っており、七階建の駅前東武ストアー兼上板橋ハウスの所は熊谷組の倉庫で高い塀が巡らされており、電灯もついていない淋しい所一人で歩くのはこわい様な所でした。そしてその駅前通り（都民銀行の前の通り）は、ヨーカ堂が出来、次々と鉄筋コンクリートの建物が立ち並び様になりました。さらに中台西台徳丸町の方は公団住宅が建ち、サンシティが出来、自殺の名所として知られてしまった高島平公団住宅群が立ち並んで、驚くべき発展を遂げております。

昔、私が開業した当初は、現在の中台住宅の辺はお化けが出そうな淋しい所でした。公団住宅が出来ると前中台寮と言つて貧民窟のような所で、そこから夜間に往診を頼まれたりしますと何時誰かに襲われないかと、全くひやひやしながら懐中電灯を照らして歩いて行ったものでございます。私の住んでおります上板

橋ハウスだけでも一四九世帯が入っており、人口は益々増加の一途を辿つて発展しております。

しかし、今もなお発展して行く陰には潰れて行くところがある事を忘れるわけには行きません。昨日の肉屋が今日は電気用品店に変わっており今ではめつたに見られなくなったチンドン屋が出て賑ついていた食品センターが今は店仕舞いをしており、本日に今日の発展までに興亡すべて夢

荒川だより

荒川支部 日野千ヨコ

この度荒川支部のお世話役を仰せつかった者でございますが挨拶に変わつて支部荒川の今昔についていささかご紹介させていただきます。



都電町屋1丁目停留所

に似て無情の風も感じる事でございます。「いたばしの昔ばなし」と言う本がありますので読んでみましたが、板橋区は昔ばなしの大変多い所とみて目次だけでも五十三もあるのが驚きました。みんなお話するわけに参りませんので一つだけでもご披露したいと存じましたが、それも枚数の関係で今回は割愛させていただきます。

先ず都電沿線から初めましょう。

チンチンという発車の合図で都内主要道路の軌道を通つた都電も次第に地下にもぐり、東京で唯一三の輪（早稲田間を走る路線の残る我が区）我が町は遠くから子供達が見物に来る程の名所になりました。先ず始発点三の輪は古くは箕輪と書かれた人家の少い場所でありましたが現在には千住に抜ける大通りの両側は近代的な建物が並んでいる交通量の多い賑やかな町で東京のはずれと思う人はありません。その昔吉原の遊女が死亡してもほとんど引き取り手がなく無縁仏になつて浄閑寺に眠っています（荒川南千住）。生まれては苦海、死しては浄閑寺と江戸時代の川柳に悲しくよまれた名残をとどめております。

小塚原は江戸のはずれと考えられて残っています。その刑場跡に首切地蔵が葬つた回向院も残っています。芭蕉が奥の細道への旅の出発地点を素盞雄神社で人々と別れを惜んだ事はよく知られています（荒川区南千住六丁目）これから先は日光街道と奥州街道であります。以上は三の輪界隈の佇まいの概略であります。三の輪を出発点とする都電の右側に自然公園があり、四、五年前までは都の汚水処分場であり悪臭が線路に添つて住む人達の公害になっていました。今はその広大な土地の上に蓋をして立派な公園となり緑の中に野球場、テニスコートもあり区民の憩いの場になっています。その近くに都営町屋火葬場があります。今になって見れば住宅地にこのようなものがある不自然さに移動運動も起きたのですが、三河島大根のとれる田園風景の中に先ずこれがあつて住宅が後から出来たのですから今更文句を言われる筋合はないと頑張られて、今ではマンション住人の人達の通夜、告別式にも使用出来るようデラックスな部屋も作られて結構重宝がられています。向い側に泊船軒というお寺がありその昔太田道灌が立ち寄つたという記念碑があります。都電宮の前停留所下車しますと東京女子医大の第二病院があります。区間唯一の大学付属病院であります。少くも建物も小さ過ぎて特に内科の病人はすぐ入院出来るという便利さはありません。都電



荒川区医師会政治連名の中の婦人部

を先に進めて荒川車庫停留所の近くに荒川遊園があり、四季の草花、子供、老人の遊んだり憩いの場であり、小運動会等に使用されています。以上が都電荒川地区沿線風景です。私の診療所もある繁華街尾竹橋通りを足立区の方に進みますと荒川放水路と隅田川の二本の川が流れて前者の方は河川敷のため平素は水が少く、河原には都営ゴルフ場もあり、休日には幾組かの野球チームや、ザリガニ取りの子供で賑います。隅田川は満々たる水を湛え水運の役をなし川添いに石油備蓄タンクも並んでいます。都電と交又して上野成田間の京成電車も、各駅停車、急行、ノンストップのスカイライナーと三通りに走り、地下は千代田線があり、我が町、町屋駅の次は西日暮里、ここでは国電と連絡し乗降客が多く、都バスも走っていて交通至便です。

日本女医学会荒川支部会は一度も開催された事はなく幻の如きものでした。昨年参議員選挙の折都医から婦人部を作れといわれ、区医師会のご努力にも反応なく集った女医八名と誠にお粗末でした。平素支部活動という基盤がありましたら婦人部として価値ある存在になったのに……と悔まれます。今迄の冬眠から抜け出して支部活動を開始する予定です。草創

大田だより

大田支部 木原シヅ子

期という言葉があります。あらゆる可能性の草が萌え出ようとするので常にドラマチックの要素を含んでいる芽や根が萌え出ていくうごめきはまさに仕事である。こんな言葉を何かで読んだ事があります。皆様、特に荒川支部の諸先生方にご支援とご協力をいただいで日本女医学会発展のために少しでも働き度いと思えますのでよろしくお願い申し上げます。

大田支部は、故藤間身加枝先生の時発足して以来、微力ながら続いている。支部会員は現在七十五名。次第に減少の傾向ではあるが、一昨年の総会の案内にご加入のおすすすめを付記して、支部会員以外の大田区在住の女医全部へ通知を出した。これは近年初めての試みであったが、沢山の返信をいただき、しかもお若い方お一方と、一時退会していらした方お一方と、二名、加入を申し込まれたのである。これは非常に嬉しい事であった。

今年の旅行は群馬県の宝川温泉で六月二十日から二十一日と決めてあった。他の会を慮って敢て梅雨期の暇な時にする例になっている。冷雨の続いている中で私どもは幸にも好天に恵まれた。早朝、日本一という広いお池のような露天風呂(婦人専用)に浸りながら、洗い落とされた若葉の四圍の山々を眺め、甘い空気を存分に吸収する事ができた。朝食後は三々五々、広い屋敷の中を散歩したり、東京より一カ月遅れて咲いている種々の草花をバックに写真を撮ったり、庭木の高い所まで上って遊んでいる小熊たちを愛しんだり、そして日本武尊の石像の前で、この湯は日本武尊が発見したという遙かな歴史に感心したり……放心したような私達を、緑樹の間から、み山つつじが

そこここで笑っていたかも知れない。上野を土曜の午後二時八分前に出発して、翌日の午後五時頃帰京した短い時間ではあったが、日頃の多忙な生活から開放された二十数時間であった。来月は孫と共にとか秋にもう一度とかの声も聞いた。土曜の夕食時、一つのテーマで発言を求めた。すなわち、今までの生活を顧て一、とても良かった事二、悪かったと思うこと、三、についてである。同行者は僅か十二名であったので一時間半余りで一渡り終った。これをまとめてみると先ず良いことはほとんどの人が健康に留意していることである。そして長い間続いて実行していることである。例えば朝の冷水摩擦、起床前の自由体操、腹式呼吸、乾布マサツ、昼寝、ダンス、歩く、そして女医になった事が一番良かったといった人もあって、因に、女医になって嫌だった人は誰もなかった。悪かった事に対しては沢山ある等で特別な言葉にはならなかった。最後は民謡、詩吟、謡曲などで楽しんだ。医師として罹患した経験者から、自分で気付いた初発症状についても披露していただくつもりであったが、時間が来ておひらきとなった。

- 寄贈図書及びパンフレット案内
- 全国婦人新聞・月刊前進座・I L O ニュース・婦人展望
 - 日本看護協会より「協会ニュース」
 - 国立国会図書館より「日本全国書誌」
 - 全国官報販売協同組合より「月刊政府刊行物」
 - 東京都生活文化局より「東京の女性」
 - 総理府婦人問題担当室より「婦人問題推進地域会議報告書」
 - 労働省婦人少年局より「日本婦人問題会議録」
- 日本中国友好協会より「日本と中国」
-
- 日中友好婦人代表団への
おさそい
- 日中友好協会全国本部が、中華全国婦女連合会の招請により左記のように日中友好婦人代表団をおくることになり、団員の推薦を依頼してまいりました。
- 詳細については、日本女医学会事務局まで一報下さい。
- 記
- 一、団名 日中友好婦人代表団
 - 二、招請団体 中華全国婦女連合会
 - 三、派遣団体 日中友好協会全国本部
- 部
- 四、団の規模 十五人〜二十人
 - 五、時期 十一月十日から二十二日
 - 六、訪問都市 北京 桂林 広州 上海
 - 七、経費 三十八万円
 - 八、申し込みメ切り 八月末日

葛飾だより

葛飾支部 唐沢 寿

「あひふれし五月雨傘の重かりし」

梅雨の候皆様お元気でいらっしやいますか、さて私の任んでおります葛飾区につきそのあらましをお話させていただきます。

葛飾の地はその昔大海原であつたと思われております。海底が隆起してきたり東京湾にそそぐ利根川や荒川の運ぶ土砂によつて河口にいくつかの島や州があらわれそしてこのデルタ地帯に人が住むようになり葛飾区の母体が作られたといわれております。この地に多くの人が住むようになったのは奈良、平安時代のことの由です。鎌倉時代葛西氏一族の領地となり江戸時代幕府の直轄地となり明治二年小菅県となり同四年廃藩置県の時東京府の管下となり明治七年「新宿」「金町」「水元」「亀有」「南綾瀬」「本田」「奥戸」の七カ町村を合併して東京市に編入葛飾区となりました。この区は東京都の東北端にあたり日本橋の全国里程元標から区の中心地点で「京成青砥駅」約一〇、一キロメートル、東は江戸川を境に千葉区、墨田区、北は大場川を境として埼玉県三郷市に接しています。面積

は三三、九〇平方キロメートル東京都区部の総面積五八一平方キロメートルの約五、八%を占めています。これは世田谷、足立、練馬、大田、江戸川に次いで二十三区中六番目の広さです。「かつしか」という地名は

現在葛飾と書きますが万葉集や和名抄などに使われているのは「勝鹿」「葛筋」「可都思加」などだそうです。私は戦争の激しくなりました時疎開のつもりで青山から金町へ移り住み四十年近く過ごしてまいりました。こんな田舎で住めるかしらと思つた所が今は大変な発展ぶりです。葛飾の名所といたしましては堀切の菖蒲園ただ今盛りで四千株と二百種類の花が咲いております。また水元公園はまだ鄙びた面影を残し鳥々の声を聞く事が出来ます。春は延々と続く桜の土手ただ今は白紫しほりの色あざやかに菖蒲が咲きみだれ、また青い柳の並ぶ下で大公望が糸をたれている有様は何んともいえぬ風景です。公園の近くに大岡越前で名高いしばられ地蔵のあるお寺がございませう。松戸から矢切りの渡しを渡りますと柴又、矢切りは小説野菊の墓で有名なところでご存じの方もあつたでしょう。柴又には帝釈天を祭つたお

寺があつて庚神の日は信者が多くお参りしてまことにぎやかです。この柴又の辺は映画の寅さんで有名でございます。寅さんの舞台となった川千家という川料理の家で時々地区の医師会がございます。

予告 //

日本女医学会 六十五周年記念について

当会の創立六十五周年を記念し、左記のとおり行事を予定しております。詳細につきましては、後報いたしますが、会員皆様の多数のご参加をお待ちいたしております。

日時 昭和五十六年十一月十五日(日曜日)

場所 東急ゴールデンホール

・東京都渋谷区渋谷二
一二一—二二

☎〇三—四〇九—四一八—

行事予定

- ・六十五周年記念式典
- ・特別講演
- ・会館移転祝賀会
- ・バザー他

忙中閑

中華人民共和国のクラスメート

高知支部 小出つる子

一九七六・一九七九・一九八〇、どの年も偶然三月、訪中して、私及び私の級友は現在中国づいていて、永い歴史と広い広い国土。一番近いお隣の国で一番よくその現状は不明で心理的には遠くて不明の国になつていた戦後の近代中国。知らないという点では一番理解しにくい国、中国。その新生中国は、ピンポン外交を手はじめに米国、そして日本と友好条約を結んでから急に手のとどく国となりました。今は中国関係のニュースが何らかの形で日本の新聞の上に表示われないことがありません。さてその一九七六年、はじめて山本杉先生のお世話で訪中した頃は、まだ毛主席は老化したとはいえ健在で、江青その他の四人組が威をふるつていて、中国の人民はただただその日の仕事に邁進するのみで、言論はまだ充分に自由ではなかつたようです。

その時は準国賓扱いとかで、我々日中友好訪問医師団一行はある程度勝手なわがままも発言出来るようにはなつていたので、「何かご希望がありますか。」と問われて、北京にCさんという友人がいられる筈です。が住所はわかりませんけど逢いたいと思つています。ちよと雲をつかむような申し出をしましたところが、

全人民の現況を一人づつよく調査しあげてリストがあるらしく、ある日突然、「Cさんをご案内します、お逢い下さい。」と通訳の方がクラスメートを同行して来られました。しかしCさんは日本語も忘れたといわれて、通訳同席の上での少時間の面会でした。その時少時通訳の方がトイレへはづされたとき、「日本へ遊びにいらつしやいよ。」と日本的な勝手なことをいったら、「とても駄目なので、行きたくない、第二の故郷の日本へ行きたい、今は高血圧とのことで仕事もいただけ養老院のような所におります。」と涙一杯で肩を抱きあつたのですが、通訳が戻つて来たらすぐCさんは中国語のみの公的発言に終始してしまい、心を残しながらおかわりの時間が来てしまいました。

その後四人組を開放した中国は急速に自由の風が吹いて来て、人民の顔も、服装も明るくある程度勝手なこともいえるし、我々訪中団も七九年、八〇年、と向うの人民と自由に話し合うことも出来、八〇年にはCさんとの文通も復活して、今年の三月の訪中の時は、Cさんが、北京駅へ迎えに来て下さつて、一日食事をご馳走になり、その時の話です。

中国では四人組、紅衛兵のさわぎの頃などに、Cさんは「実はあのさ

わぎの時、日本で医学を学んだ人々の前、日本のスパイだといわれ、燃されたときの悲しかったこと、そのあとの苦しかったこと、今は、日本あなたがたクラスメートが連名で証明して下さって、日本の厚生省で医師免許の再交付が受けられる手続きが完了し、近く日本へそれをいただきに行き、ひきつづいて少し日本語もあらためて習得しなおして、それから東京都のお世話で無医村(八丈島国保診療所)へ勤務する予定です、嬉しいことです。しかし私はクラスメートの努力のおかげで幸わせなのですが、まだまだ同じような状況で知っている友人もこちらで悲しい生活をしている方が、知っている範囲でも五、六名はあり、全中国にはそういう医籍を奪われた、日本で学んだ医師が沢山いらっしゃるよ。」でも日中友好条約が出来、自由日本医師免許をそういう方々が再交付していただけるようどんどん各大学で探し、クラスメートが後援して厚生省と交渉すれば良いでしょう。」それは日本の自由な考えの方々に想像もつかないことで、子供でも信用の出来なかつた苦しい時代をすごした私共には、その名も方法も公表はこの北京の中では私は発言出来ないのです。いつまたあの恐ろしい紅衛兵の如き騒動があるかも知れませんが、万事も口には蓋をしておきます。」とのこと、日本へいらして、八丈へ正式にご勤務になった

ら日本での自由すぎる言動がおわかりになるでしょう。」といつてわかれましたが、

その後、Cさんにお逢い出来、「いよいよ八丈へまいります、一年契約ですから、復契約を新しくするか、または他の陸つづきの診療所に勤務したい気持ちもあります、近くに診療上のことでご相談申し上げる親しい方がいられないと心細い私です。」とのこと、そういう点では私のいる高知県は無医村は無いけど陸つづきで車で30分も行けば必ず女医会員もいる市が多く、知事にも私が話して乗り気ですからご心配ないですよ。あなたも日本にいらつしやつたらもつと心を開いて何でもお話をさつて自由なのですよ。」うっかりしたことを発言しますと、現在中国にいられる、私と同様な方々にまたつらいことがあると心配はいえませんが、心は充分に開けない様子なので、もう少し日本の自由さを知られてから聞かせていただくようにといつて別れました。

こういつた例は、日本で勉強して在中国の動乱、変転の中で、医師でありながら一労働者としてだまつて働いている方々に、せめてきめこまかい手をさしのべて助けてあげることも、日本女医学会の立派な一つの業績になるのではないかと考えております。

(文中で特に名をはつきりと書きませんが、諸々の影響を考えて誌上ではCさんと書かせていただきました)

理事会議事録

日時 昭和五十六年三月二十八日

場所 至誠会館 四階会議室

出席(敬称略)

- 三神、福永、柳瀬、小俣、久保田、佐藤、竹内、野沢、松岡、丸山、守安、八木、川口、川島、佐野、蓮井、平瀬、藤田、森川、山本、添田、山口

欠席(敬称略)

- 山崎、稲葉、尾中、大原、川那部、齊藤、清水、鈴木、野口、野呂、藤井、マッキンストリ、今野

庶務報告 久保田常任理事

2月28日 吉岡弥生賞審査委員会、常任理事会を行う

3月3日 橋本葉子、日野俊子両先生へ吉岡弥生賞授賞決定通知を発送する

3月6日 15日 日中友好協会婦人代表団として小俣、野沢両常任理事中国訪問する

3月11日 広島、奈良支部会員へ支部長選出依頼状発送する

3月12日 小野春生先生日本女医学会優功賞授賞決定通知及び村松忠子先生へき地診療への助成決定通知発送する

3月18日 リッカー株式会社よりミシン販売パンフレットを昭和五十二年、五十三年、五十四年卒の会員に発送する。

報告事項

(1)第三十三回婦人週間の実施について

テーマ あらゆる分野への男女の共同参加

期間 昭和五十六年四月十日～十六日

主唱 労働省

会計報告 守安常任理事

二月分別紙どおり

議 題

一、昭和五十六年度事業計画案及び予算案について

・昭和五十五年一般会計収支決算書案にもとづき推定額について

・昭和五十六年度予算案について

・昭和五十五年度と比較しながら検討する

原案どおり承認

二、事務所移転にともなう諸費用について

国際女医学会記念事業として学術研究助成基金二千万円、国際交流基金一千万円、事務所購入費四千万円を特別会計より支出することはすでに決定しているが、事務所移転にともなう諸費用として内装費、備品費、取得税、六十五年周年記念行事費、総額約五〇〇万円必要であり、特別会計の利息分から支出することを決定する

三、昭和五十六年総会について

・四月発行の会誌に総会案内を掲載する

・現在のところ総会出席者は一八二名

四、昭和五十七年総会開催地について

・東京にて開催

・昭和五十八年総会開催地を評議員会及び総会において討議することに決定

五、その他

(1) JIMS(A) 日本国際医学生交流連盟より寄付の依頼について

五万円助成 決定

(2) 全国婦人新聞社より購読料支払いについて

年額三千円支払う 決定

(3) 日本文化協会より寄付金依頼について

一万円寄付する 決定

(4) 学術研究助成者五名決定する

① 河村節子 三十九年卒

五十五年十二月入会

成人急性白血病再燃機序及び再燃早期予知に関する研究

② 大石まり子 四十九年卒

五十五年十二月入会

Neurotensin の血圧に対する効果

③ 高野加寿恵 四十四年卒

四十四年三月入会

Somatostatin に関する研究

④ 垣生園子 四十一年卒

五十五年十二月入会

生体内における抗腫瘍作用の解析

⑤ 平敷淳子 三十九年卒

三十九年三月入会

Natural Killer 細胞の役割

⑥ 総合画像診断、イメージ処理装置の開発

日本女医学会第一回学術研究助成に三十二名の応募があった選考委員会にて審議の結果上記五名を決定する

助成金は一般会計研究助成費から三十万、学術研究助成基金から百二十万、総額百五十万円を三十万円ずつ五名に助成する

(5) 昭和五十六年度常任理事会及び理事会開催予定日について
昭和五十七年五月三十日(日)を総会とする

会場は庶務部に一任する
したがって昭和五十七年四月二十四日を理事会と変更し、その他は別紙のとおりとする

(6) 日本女医学会名簿貸し出しについて
毎日新聞社「サンデー毎日」編集部石村博子氏より会員名簿の貸し出し依頼あり、検討の結果事務局で見えていただくか購入を願うかいずれでも可とする

(7) 吉岡弥生賞授賞者決定報告と吉岡弥生賞規定改正
・ 昭和五十六年吉岡弥生賞授賞者決定
医学に貢献した会員
橋本葉子
社会に貢献した会員
日野俊子

・ 吉岡弥生賞規定を一部改正する
荒川あや女史の申し出によりこの金額を基金として、その

利子を年々の運営資金として当てる

吉岡弥生賞を事業の一部として永続し、故吉岡弥生先生の偉業を永遠に伝え、その遺志の発揚に資するものである
(審査委員会推薦委員)

一、審査委員会は、十名の委員で構成され、その任期は、三年(日本女医学会役員任期と同じ)とする。ただしそのうち龍、荒川両女史は終身委員とし、その他の審査委員は、日本女医学会理事会において選出する

二、日本女医学会理事及び支部長を推薦委員に委託する

(8) 広島、奈良支部長選出について
いまだ支部長選出の届出がないので、四月の理事会までもう少し連絡を待つ

(9) 川那部理事が足の関節炎で理事会欠席であるが、もう少し様子をみる

(10) 滋賀支部から支部助成金二千二百円が返金されてきたので雑収入とする

(11) 日本女医学会バッチは一個二百円で製作できる色も自由にできる
(12) 前進座八月特別公演「阿部一族」の観劇の知らせあり
(13) ルーペンダンのについて

ルーペンダンの実用新案登録の期限切れにともない(株)エディコーポレーションとのロイヤリティー等は、従来どおりとする

りとする
(14) 新事務所の内装等について業者と検討する

(15) 日中友好協会婦人代表団として出席した小俣、野沢両常任理事より中国訪問について挨拶あり
(16) 小野春生先生から日本女医学会優功賞推薦の礼状あり

以上 久保田くら松岡 宏子

日時 昭和五十六年四月二十五日
場所 至誠会館 四階会議室
出席(敬称略)

三神、福永、柳瀬、山崎、稲葉、小俣、久保田、佐藤、竹内、野沢、松岡、丸山、守安、八木、川口、斉藤、佐野、鈴木、野口、蓮井、平瀬、藤田、山本、今野、添田、欠席(敬称略)

尾中、大原、川島、川那部、清水、野呂、藤井、マッキンストリ、森川、山口
庶務報告 久保田常任理事

3月28日 常任理事会、理事会を行う
4月17日 デンマーク大使高橋展子氏を囲んでの懇談会へ山崎、柳瀬両副会長出席する

4月18日 昭和五十五年会計監査を行う
日中医学協会総会に柳瀬副会長出席する

その他事項
学術研究助成者平敷淳子先生より礼状あり

報告事項

一、国立婦人教育会館より昭和五十六年度婦人ボランティア活動研究集会について
テーマ ボランティア活動の輪を広げるために
主催及び会場 国立婦人教育会館

期日 昭和五十六年五月二十日
休(二十一日) 二泊三日
二、日本婦人問題会議開催要領
主題 あらゆる分野への男女の共同参加
主催 労働省

期日 昭和五十六年五月二十九日
会場 サンケイ会館(東京)
会計報告 三月分会計報告は、昭和五十五年決算書に含まれるため省略

議題
一、定時総会について
(1) 会務報告、事業報告、昭和五十五年決算、昭和五十六年度予算案についてあらかじめ配布済の案にしたがって検討する
昭和五十六年度事業計画案について

庶務部
① 日本女医学会六十五周年記念式典 十一月十五日(日)

② 会館移転祝賀会
③ 二十五年永年会員表彰式
④ 役員連続十年以上の表彰式
学術部
① 講演研修会 六十五周年記念

式典にさいして講演会を開催したい
② 研究助成 五十六年十二月までに公募を行う
③ 吉岡弥生賞 五十六年十二月末日までに医学、社会に貢献した会員をご推薦いただきたい
事業部
① へき地診療への助成
② 公衆衛生、社会福祉への助成
③ 支部助成
④ 年金
⑤ ルーペンダン
⑥ 六十五周年記念に際し、バザーを開催する
渉外部
① 国内及び国際交流
広報部
① 機関紙の発行
② 六十五周年記念行事特集号発行
② 評議員会、総会の議題及び次第の役割分担を決定する
二、職員昇給について
基本給の七%アップ
賞与は、年五ヵ月
三、その他
(1) 柳瀬副会長より日中医学協会総会に出席しての報告あり、役員に当会より三神先生の他にもう一人推薦するようにとのことである
(2) 昭和五十七年総会について
東急ゴールデンホールと京王プラザホテルより見積を取り、種々検討の結果下記のとおり決定する

日時 昭和五十七年五月三十日
場所 京王プラザホテル

(3)市川房枝先生の長編記録映画
「八十七歳の青春」上映協力券の
購入願いに對し、都合のつく方
は、個人で観覧してほしい

(4)総会資料を会員に送る際、ルー
ペンダンパンフレット、リッカ
ーミシン購入申込書、カナダ旅
行募集パンフレット等を同封す
ることについて

通信費が七十円オーバーする
ので、日本交通公社(カナダ
旅行募集パンフレット)三十
円、リッカーミシン株式会社
(ミシン購入申し込み書)二
十円、エディコーポレーシ
ョン(ルーペンダンパンフレ
ット)二十円をそれぞれ負担
してもらおう

(5)広島、奈良支部長選出について
両支部より支部長の選出がな
いので、広島支部は総会出席
者の増田文枝先生を評議員会
にオブザーバーとして出席し
ていただくようお願いする
奈良支部からは現在総会出席
者がないので、人選について
は、庶務に一任する

(6)婦人団体について
種々の婦人団体の活動につい
て山崎副会長より説明あり、
今後とも引き続き国連NGO国
内婦人委員会に對してできる範
圍で協力する
当会の窓口として三神美和、

山崎倫子、柳瀬路子各先生お
よび渉外部の竹内静香先生と
する。

国際婦人年日本大会の決議を
実現するための連絡会に年額
一万円の支払いをすることに
決定する

(7)国際女医学会について
・国際女医学会次期役員候補者の
指名については、山崎国際連
絡書記に一任する
西太平洋地域の佐野先生は、
もう一期つとめることが出来る

・国際女医学会ニュースに各国か
らの情報交換があり誌等で
お知らせする
・国際女医学会に若い会員を増す
のには、どうしたらよいかと
いう問題がおこっている

・国際女医学会費について発展途
上国会員の会費を六〇%割り
引きし、工業国会員の会費を
一〇%値上げする案は、日本
としては不賛成である

・行事に對しては、その資金づ
くりを心がけ、国際女医学会に
寄付出来るようにしたい
・六月に国際女医学会役員会に佐
野アヤ子先生出席予定である

・国際女医学会の定款及び歴史に
ついての抄録本が届いた
(8)タイムレコーダー価格の見積を
とる

(9)愛知支部よりハンドバックハン
ガーに国際女医学会マークを使用
したい、そしてその売り上げの

一部を寄付する考えであると報
告あり
(10)東京タイムズ社より国際身体障
害者年にあたり、当会へ広告寄
付の依頼があったが否決する
以上 久保田くら
松岡 宏子

会員動靜

入会会員(敬称略)

都下支部 古明地俊子

退会会員(敬称略)

北海道支部 横山靖子

福島支部 新林カツ

足立支部 岩崎順子 橋本洋子

荒川支部 小沼佳枝

板橋支部 北原久枝

大田支部 堺 春美 宮坂由美子

江東支部 林 美智子

渋谷支部 丸山ユキ子

新宿支部 菊地ちづ子

世田谷支部 後藤君代

千代田支部 藤田幸子

都下支部 池田愛子 小田輝子

神奈川支部 常間地嘉子

静岡支部 中山静枝

長野支部 松橋よし 吉田登喜

岐阜支部 上田真理子

奈良支部 奥村カヲル 西崎沢子

広島支部 森永道子

愛媛支部 大坪裕美

高知支部 高木佐世子 町田照代

高橋伊都子 楠瀬晶子

中夏夏喜子 中島珪子

松岡耐子

福岡支部 南川磨智子
会員物故者(敬称略)

訃報に接し哀悼にたえず謹しんで
ご冥福をお祈りいたします。

秋田支部 小松美都子

神奈川支部 足立智恵子

静岡支部 天野富久栄

福岡支部 小栗初江

福岡支部 鯛瀬幸枝

編集後記

梅雨空に映えた紫陽花のさわやか
な色彩の美しさもつかの間、昨年の
冷夏にひきかえ、今年は本当に夏ら
しい猛暑の毎日でございますが、諸
先生方にはお元氣にご活躍の事と存
じ上げます。

やっと会誌第八十七号を皆様
おとどけできる事となりました。

今回は第二十六回定時総会特集号
として名古屋のキャッスルホテルに
おいての総会の模様を愛知支部の森
川みどり先生、佐藤千代子先生を始
め多数の先生方のすばらしいご協力
により、ご報告できますことは、こ
の上もなくうれしい事でございます。

討論会に、雅楽に、種々の観光にと
本当に楽しい有益な時を過ごさせて
いただきました。また久しぶりにお
目にかかれた先生方、遠方からの先
生方とのなご一層の交友を深められ
ました事は、ひとつひとつつかし
い想い出として脳裡にきざみこまれ
た様な気がいたします。

群馬支部に引きつづいて会を重ね
てまいります毎に日本女医学会の会員
の先生方のすばらしい底力、結集力
と湧きあがる感激とを会に出席され
た皆様方は、どなたも感じられてい
らっしゃる事と存じます。会員一人
一人のなご一層の努力により必ずや
魅力ある会にしてまいれるものと固
く念じております。

なお、来る十一月十五日(日)日
本女医学会六十五周年記念行事につ
き子告させていただきますが、当日
は完成した新本部事務所も、ご覧
いただけますので諸先生方ぜひ多数ご
出席いただきます様に、また記念特
集号の発行も予定しておりますので、
ふるって原稿をお寄せくださいませ
よう心からお待ちいたしております。

最後にご多忙にもかかわらず、
玉稿を賜りました諸先生方に深く感
謝申しあげます。
(広報部 野沢)

昭和五十六年七月二十日 印刷
昭和五十六年七月二十五日 発行
編集人 野 沢 良 美
発行人 日 本 女 医 会
発行所 東京都新宿区
市谷河田町19
社団法人 日 本 女 医 会
TEL (341) 0968
印刷所 東京都文京区本駒込
一七七一五
株式会社 北 斗 社